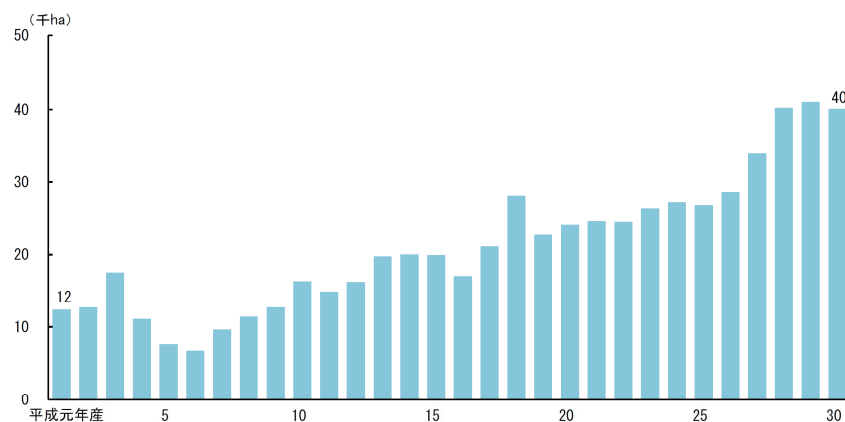


4 大豆（乾燥子実）

■ 作付面積

・北海道における平成30年産大豆（乾燥子実）の作付面積は4万100haで、平成7年産以降増加傾向となり、特に平成27、28年産が大きく増加している。

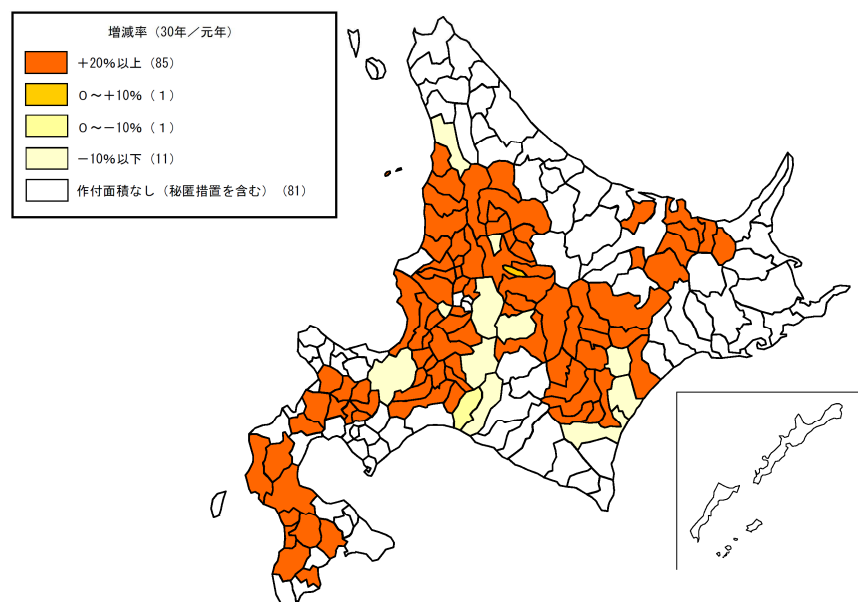


資料：農林水産省統計部「耕地及び作付面積統計」（以下同じ。）

注：乾燥子実とは、食用にすることを目的に未成熟（完熟期以前）で収穫されるものをいう。

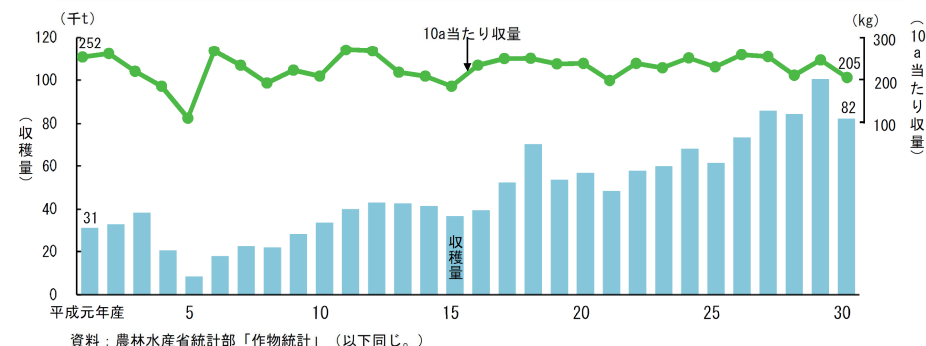
■ 作付面積の比較

・平成30年産の大豆（乾燥子実）は道内125市町村で作付けされており、全市町村の70%を占めている。このうち、85市町村で平成元年産に比べ作付面積が20%以上増加している。



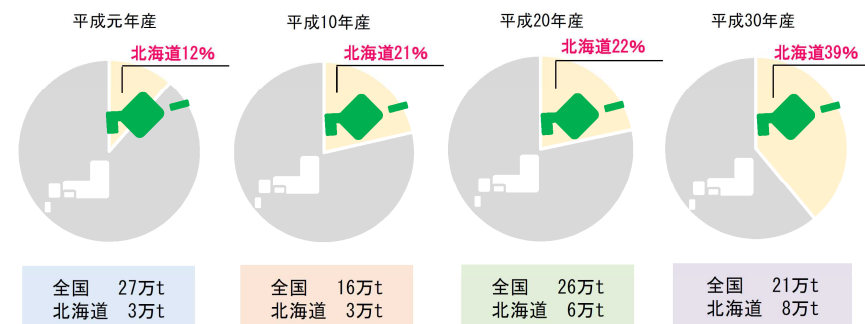
■ 収穫量と10a当たり収量

・平成30年産大豆（乾燥子実）の収穫量は平成元年産の約2.6倍で、10a当たり収量は平成22年産以降200kgを超える水準で推移している。



資料：農林水産省統計部「作物統計」（以下同じ。）

■ 全国に占める北海道の大豆収穫量割合



■ 上位市町の収穫量

・平成30年産は音更町、岩見沢市、長沼町、帯広市及び士別市の上位5市町で、北海道の収穫量の約28%を占めている。

